

今日の使徒書には、ヨハネの手紙一の最初の部分が読まれました。そして、聖書を開くと、5節からの文章の前に「神は光」という見出しがあります。今日の使徒書は、光とのつながり、光との交わり、ということ語っています。そして、ここで言う光とは、父なる神様のことを表すひかりではありません。「神は光」という小見出しですが、ここで言う「光」は、イエス様のことです。

現在の聖歌集にはなくなったのですが、前の古今聖歌集439番は、このことを歌っていました。

この聖歌は「光に歩めよ」という言葉でそれぞれの節が始まっています。今日の使徒書は、ヨハネの手紙一です。この手紙を書いたヨハネは、ヨハネによる福音書も書いた人です。書き出しがよく似ているでしょう。クリスマスに読む、「はじめに言があった」という書き出しのヨハネによる福音書は、言がイエス様であるという定義から、「言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。」という風に、イエス様の性質を、命とか光とか、別の言葉を使って説明していました。そして、この福音書を読み進めていくと、8章や9章では、イエス様ご自身が、「わたしは世の光である」と言われているのです。

さらに12章に入って、イエス様はご自身が、しばらく弟子たちと共にいるから、その間に、イエス様を信じなさい、ということ、光にたとえて言われるのです。

12:35 イエスは言われた。「光は、いましばらく、あなたがたの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか分からない。 12:36 光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい。」

この、光であるイエス様と共に歩む、というのが、古今聖歌集439番のテーマなのでしょう。

それじゃあ、光にはどんな性質があるのでしょうか？

1節目「光に歩めよ さらばふかき みたまのまじわり たえずぞあらん」

2節目「光に歩めよ、さらばまたと、この世の汚れに そまずぞあらん」

3節目「光に歩めよ、さらばくらき たにまをゆくとも やすくぞあらん」

4節目「光に歩めよ さらばはかも 朽ちざるさかえの かどとぞならん」

そして最後5節目「光に歩めよ、さらば消えぬ 光のみかみは こころにまさん」

光の中を歩んでいると、当然イエス様との交わりが常に続いています。「ふかき みたまのまじわり たえずぞあらん」ということでしょう。

そして、光には殺菌作用がある、ということでしょうか。天気が悪くジメジメしていると、フトンも乾かないで、気持ちが悪い。それを日光消毒すると、本当に気持ちよく寝られるようになります。「またと、この世の汚れに そまずぞあらん」。いつもイエス様の光に当てられていると、嫌な過去の罪は洗い流され、清い生活ができる、ということでしょうか。

そして、暗闇を歩むような辛い生活も、イエス様の光を受けていると、道を間違えず、歩いてゆける。それが、「くらき たにまをゆくとも やすくぞあらん」ということになります。

そして、人生の終わりである死という墓の中に入る時も、そこは栄光へ入る門になるんだ、ということです。「はかも 朽ちざるさかえの かどとぞならん」ということでしょう。

このように、イエス様と共に、光の中を歩んでいると、結局、明るい生活ができるじゃないか、ということ、最後の「消えぬ 光のみかみは ころにまさん」という言葉で締めくくっているのでしょう。

さて、このような、イエス様との明るい生活が、クリスチャンの理想だと思いますが、そのために、私たちは、具体的にどうしたらいいのでしょうか？

以前五十嵐主教は、私たちに、5年後の夢を描きなさい、と言われて、それぞれの教会も、それに向かって取り組んでいました。しかし今にして思えば、実行する時に、何かもう少し、ガイドラインと申しましようか、指針、方向付けは、ないものか、と思ったことでした。

それからだいぶ過ぎてですが、私の友人が、面白いガイドラインを教えてくださいました。

これは、元々は、富士ゼロックスというコピー機の会社の、小林陽太郎という会長さんが言い出したことらしいのですが、「A B C D + Eの発想」というものだそうです。

この会長が、アメリカで講演した時のたとえ話で、A B C D + Eには、それぞれ英語の単語が入るので、ちょっと面倒ですが、説明します。

会社が新しい製品開発などに取り組み、それを成し遂げる、プロジェクトの発想です。

Aとは何か？アスパイア。aspire「熱望する、切望する、熱願する、目指す、志向する」などと訳される単語。

最初に何か「したい」と思わなくてはならない。クラーク博士ではないが、志が必要。まあ、五年後の夢を持つ、ということを実際に願っていることが大切だ、というわけです。

では、その次。Bとは何か？ビリーブ believe. 自ら信じなければいけない。志を持つのはいいけれども、「そんなこと言ったってうちはできませんよ」というのでは駄目です。そう信じるのが大切。

そして、退路を絶って、C。コミット commit 「全力を傾ける」ということですね。具体的に計画を作り、予算も人も配する。掛け声だけでなく、作業ができるように、資金も人材も用意して取り組めるように準備する。

そして最後は、D。これは、ドゥー do. やるしかない。

ここまで、会長が説明すると、インタビューしていた記者が、
「自ら信じるということは明るいということですね。その心構えで、積極的にやるんだということですね。」と感想を述べると、会長さんは、気分を良くしたのでしょうか。

「明るく、というのはまさにそうなんです。おもしろく、楽しいということですね。」と答えます。

そして、この会長の始めた、ニュー・ワークウェイ運動、(新しい仕事の仕方運動ということでしょうか) その目指す方向の一つに「快適なビジネス環境をつくりたい」、というのがあろうか。

環境は厳しいほうが優れたものができるという考えもありますが、実際はどうでしょう。快適な環境で、ゆとりもあって、おもしろい仕事場のほうが、クリエイティブな仕事、創造性のある仕事ができるのではないかと、思うところらしい。

この話を会長がしたら、好評だったのですが、何人かが手紙をよこして、「A B C Dだけでは完全ではない」というわけです。「E」が足りない。それはエンジョイ enjoy。「楽しみ」だ。新しい仕事の仕方と言うからには、楽しみが欠けていては、十分ではない。

明るく前向きに物事をとらえていかないと、展望は開けてこないんだという考え方が大切。

「光に歩めよ」ということを考えてきましたが、「志を持ち」「それが実現すると信じ」「そのための資金や人材などを配置して、具体的な計画を立てること」「そして実行する」わけですが、それら一連のものには、「明るさ、喜びがなければならない」

イヤイヤながら、苦しそうにやっていたのでは、効果は出ないだろう。

本当に、喜びを持って歩みだすことをしたい。そうすると、「消えぬ 光のみかみは ころころにまさん」ということになる、そう信じて歩みたいものだと思います。

わたしたちの生活が光を受けて、喜びにあふれた明るいものであるように、心がけたいと思います。